

【山城】富士山

【日程と天候】2008年6月1日 晴れ時々ガス 頂上付近で風やや強く気温5~6℃

【メンバー】CL 菊池 (TM)、岡田・鶴田・吉川・Mさん (会員外) 平均年齢56.6才 (最高齢69才)

【行程】富士宮口駐車場6:10/6:40 - 9合目、萬年雪山荘休憩 - スキー板デポ地点 - 富士山頂12:50/13:05 - スキー板デポ地点 - 富士宮口駐車場15:40



【内容1：吉川記】 ちば山山スキー報告に良く登場するMINMIN こと内田さんを吉祥寺でピックアップ。喋りのテンポの速さに少々圧倒されたが、話しも豊富で楽しく、富士宮口に着く頃にはすっかり目覚めた。雪の無いガレ場を、板を担ぎスキー靴で、ヨロヨロ登り始める。見上げて、ガレ場しか目に入らず、ほんとうに雪があるの？という景色を200m位登ると沢に雪が見え始め、アイゼンを装着する。ガレ場より歩きやすくホツとする。頭上は、真っ青な空、眼下は時々ガスのベールに覆われるが、駿河湾を見渡す事もできた。ジグザグを切りながら順調に登る。七合目から八合目辺りで、右の沢にトラバースする。ザラメの斜面が延々と続く中、山頂の小屋が見え始める。これからが大変！と脅され(ほんとうだった)九合目の小屋、萬年雪山荘で、エネルギーの補給をして、登り始めた途端に大腿部が痙攣し、マッサージをしてゆっくり歩いているうち何とか快復したが、浅草岳の時と同じで、暫くは、祈るような気持ちで登る。九合五勺位から急に風が強くなり、耐風姿勢を時折とりながら風の弱まる時に進む。アイゼンはしっかりきいていたので、風に飛ばされないよう登った。風から開放された山頂直下に板をデポしてガレ場を登り、鳥居をくぐって剣ヶ峰をバックに記念写真を撮る。今、日本一の山、富士の山頂に立ち、これからスキーで滑り降りると思ったら、感情がこみ上げ、感激のあまり同行の皆に抱きついてしまった。九合目までは、順調だったが、その後、大腿部の痙攣や耐風姿勢をとりながらの最後の登りは、試練であった。滑り出しのカリカリ急斜面は、指示通り横滑りで下る。その後は、高度を下げる度ザラメの雪質は少しずつ変化するものの、自分のスキー技術で最後まで快適に滑れた。八合目くらいまでは雲上の晴で、気分爽快！後、ガスで残念だったが、リーダーの後に続いて下降する。見えなくなった時、笛の音を追って行くと人影がポーツと浮かぶ、この繰り返しもまた楽しかった。雪が消え、板を担いで駐車場まで下る道のりは、達成感に満たされ心地よかった。今回、



入梅前の瞬時に富士山を滑り収めにできてラッキーでした。リーダーと同行の皆に感謝です。今回、MINMIN が板を引いて登行した。自分も過って板を引いて登った事があったが、来期に試してみようと思う

【内容2：菊池記】 昨年は横浜のK 氏から情報をいただき素晴らしい須走り斜面を堪能でき、今年もわが会の仲間7 名が17 日須走りルートを登頂・滑走しました。昨年から須走りルートは人気があり、今年はさらに入山者は多いようです。小生は5 月に砂走りを予定していた2 回とも天候不順で順延、1 日のラストチャンス（？、もう一回くらい狙っていますが）に、富士山登頂山スキー初体験の数名を登頂させるべく、楽な富士宮から入山しました。今回はゲストのM さんを加え楽しい登頂山スキーを堪能できました。

・ 残雪は例年より多く駐車場からの階段口は使えず、駐車場はずれカーブ地点から入山・2800m地点から雪渓をアイゼン登行、M さんはスキーを引っ張ったが、高齢者・女性には楽なようであった。今年2 年ぶりに山スキーを再会した吉川さんは9 合目山小屋で休憩後、大腿部がつりそうな気配になった。マッサージや大腿四頭筋に負担のかかりにくい登り方を指導しセーフであった。休憩前にトップの早いペースにぴったりついたこと、水分などのとりかたなど、留意する点多し。



・ 気温は低くなかったが、頂上付近は風強く、バランスを崩しそうになった。また3500m以上は早くもクラストバーンとなっていた。・ 登りでは3000m付近のみ一時ガスが湧いたが、下りは3300 くら宮ルートは風の殆どない安定した日でないとも下部でガス(雲) は必発のように感じた。

・ 大雪渓を二つ繋ぎ2800m付近まで滑走可能であった。(2730m付近までもう一つの小さな雪渓も滑れる) ・ 雪渓側壁の溶岩壁は1～2 mで例年より低く、残雪量は多い。・ 梅雨入りしたが、低温が続く、残雪量は多い。・ 梅雨入りしたが、低温が続くようであり、いましばらく富士宮ルートも楽しめそうである。